

四国の隠れた 観光素材を発掘

近ツアー個人旅 共同企画第5弾を発売

近畿日本ツーリスト個人旅行と日本旅行はこのほど、2011年3月に立ち上げた共同企画「地域を元気にするプロジェクト」の第5弾として、四国の隠れた観光素材にスポットを当てた旅行商品「き・ら・り四国」を発売した。今回、プロジェクトで新たに開発された「仁淀川」「奥祖谷」の二つの観光コースを訪ねた。

（3面参照）

■奇跡の清流・仁淀川ツアー

仁淀川は石鎚山から高河川といえは清流四万十知県内6市町村を流域川が有名だが、仁淀川もに、土佐湾に流れる全長透明度では引けをとら124kmの河川。四国の、国土交通省の全国一



中津溪谷



浅尾沈下橋

級河川平均水質ランキン谷（同）。ツアーではそグで2010年の全国一位となった。青く輝く美しい川面は高知県出身の写真家、高橋宣之氏が「仁淀ブルー」と称し、地元でも昨年からのPRに本格的に力を入れている。

中津溪谷

仁淀ブルーが見られるのは流域の中津溪谷（高知県仁淀川町）と安居溪

谷（同）。ツアーではそのうちの一つ、中津溪谷を訪ねる。溪谷は遊歩道が整備され、入り口から最も奥の「雨竜の滝」まで、木々の緑や奇岩を眺めながら約20分歩く。川面には淡水魚のアメゴ（アマゴ）が悠々と泳ぐ姿が見られる。清流と滝から出るマインスイオンが訪れた人の心と体を癒してくれそう。遊歩道は恵比寿天、毘沙門天、弁財天など七福神の石像も点在するパークスポットとなっている。溪谷の入り口には鉱泉施設「中津溪谷ゆの森」もあり、ゆったりと休憩や食事ができる。

浅尾沈下橋

中津溪谷から車でおよそ30分のところにある浅尾沈下橋（高知県越知



野猿



かかしの里

でしもう橋のこと。流木などで橋が流されたり、洪水が起きたりしないようにするため、このような構造になっているという。夏「の口」地にもな

■秘境・奥祖谷ツアー

「き・ら・り四国」は近ツアーの「メイト」、日旅の「赤い風船」で共同展開。四国ツーリズム創造機構、JR四国が協力している。四国4県をデザインを設定した。首都圏、

「祖谷のかずら橋」で知られる徳島県祖谷溪の、さらに奥にあるのが秘境、奥祖谷だ。JR大の二重かずら橋（徳島県三好市）は、今からおよそ800年前、讃岐志度の浦の戦に敗れ、この地に逃れた平家一族が架ける人力のロープウェイ「野猿」があり、こちら

奥祖谷二重かずら橋

祖谷川にかかる奥祖谷の二重かずら橋（徳島県三好市）は、今からおよそ800年前、讃岐志度の浦の戦に敗れ、この地に逃れた平家一族が架ける人力のロープウェイ「野猿」があり、こちら

女橋のすぐ横には引き綱を手繰り寄せて川を渡る人力のロープウェイ「野猿」があり、こちら

落合集落

山の斜面に古民家が点在する落合集落（徳島県三好市）は、国指定の重要伝統的建造物群保存地区となっている。江戸中期から昭和初期にかけて



奥祖谷二重かずら橋



落合集落

集落の全景は近くの展望所から見られる。JRの手づくりの人形（かか）100体以上が飾られていて、主婦の綾野月美さんが制作した。大阪から生まる祖谷二重かずら橋から車で約10分。



パンフレット

関西、中部などを発地に、4～9月の設定期間中、両社合わせて8万5千人の集客を見込んでいる。今回の「仁淀川」「奥